

新規事業採択時評価結果（平成17年度新規事業化箇所）

担当課：道路局国道・防災課  
担当課長名：鈴木 克宗

事業の概要

事業名	一般国道325号 河内バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	宮崎県
起終点	自：宮崎県西臼杵郡高千穂町大字河内 至：宮崎県西臼杵郡高千穂町大字河内	延長	1.1km		
事業概要					
<p>一般国道325号は、福岡県久留米市を起点とし、熊本県山鹿市、高森町を経由して宮崎県高千穂町に至る幹線道路であり、本県の北部地域と熊本県を最短距離で結ぶ県際間道路として、広域的な地域連携活動を支援するとともに、阿蘇～高千穂を結ぶ観光ルートとしても重要路線である。</p> <p>河内バイパスは、線形不良、視距不良による大型車の離合困難箇所の改良により安全で円滑な交通を確保するとともに、物流効率化を目的とした1.1kmの2車線道路である。</p>					
事業の目的、必要性					
<p>本路線は、宮崎・熊本両県の道路整備により、現況交通量が飛躍的に増加しており、特に大型車はH2比で約4倍の交通量となっている。一方、河内バイパス区間は、急カーブが連続し、縦断勾配も急なことから大型車の離合困難区間であり、特に冬期には積雪や路面凍結により通行が規制され、人員・物資輸送の円滑化、広域観光ルート形成などの地域間交流の大きな支障となっている。</p> <p>このため、田原バイパス（平成16年度供用）に引き続き、県際間道路の安全で円滑な整備を早急に行う必要がある。</p>					
全体事業費	30億円	計画交通量	3,600台/日		
事業概要図					

事業評価結果

費用対便益	B/C	2.0	総費用：26億円 （事業費：25億円 維持管理費：1億円）	総便益：52億円 （走行時間短縮便益：47億円 走行費用減少便益：5億円 交通事故減少便益：0億円）	基準年 平成16年	
事業の影響	評価項目	評価	根拠			
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	-	注目すべき影響はない。		
	事故対策	○	安全性の向上（事故の減少） その他の特長：自動車の動線分離が図られる（H15交通事故11件）			
	歩行空間		歩行者の安全性向上 （現在歩道が無いまたは狭小な区間に歩道が設置される：通学路であり、歩行者交通量163人/日である区間の歩道未整備延長524m 整備後の歩道幅員2.5m）			
	住民生活	-	注目すべき影響はない。			
	社会全体への影響	地域経済		隘路の解消による物流効率化の支援 （県境を越え延岡～熊本を結ぶ物流輸送道路であるにも関わらず、大型車すれ違いが困難である。：大型車交通量4倍 [H16/H2]，曲線半径R=23m，縦断勾配i=9.1%）		
	災害		緊急輸送道路を形成 （H8防災点検の要対策箇所5箇所が解消され、緊急輸送道路1次の機能確保が図られる。）			
環境		Co2排出量の削減 （本区間の整備により自動車からのCo2排出量が645t/年削減される）				
地域社会		主要な観光地へのアクセス向上 （主要な観光地である高千穂峡 [観光入込客数=125万人] と阿蘇地域 [1,670万人] のアクセスが向上して、広域観光ルートの形成が図られる）				
事業実施環境	-	注目すべき影響はない。				

採択の理由

費用便益比が2.0と、便益が費用を上回っていることから、事業採択の前提条件が確認できる。当該、県際間道路の大型車すれ違い困難区間解消により、物流輸送の効率化・広域観光ルート形成が支援され、地域経済への必要性・効果は高いと判断できる。また、防災点検要対策箇所の解消により緊急輸送道路の機能確保が図られ、災害への備え・効果は高いと判断できる。以上により本事業を採択した。

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。

関係する地方公共団体等の意見

本工区は、田原バイパスの整備により年々大型車交通量が増加しているため、沿線住家への騒音・振動が深刻な問題となっており、バイパス整備への地元の期待は高く、沿線住民および自治体で構成される国道325号改築事業促進期成同盟会により、活発な要望活動が行われている。

事業採択の前提条件

費用対便益：便益が費用を上回っている